

第5学年 算数科学習指導案

1 単元名 図形の角のひみつを調べよう

2 単元とその指導について

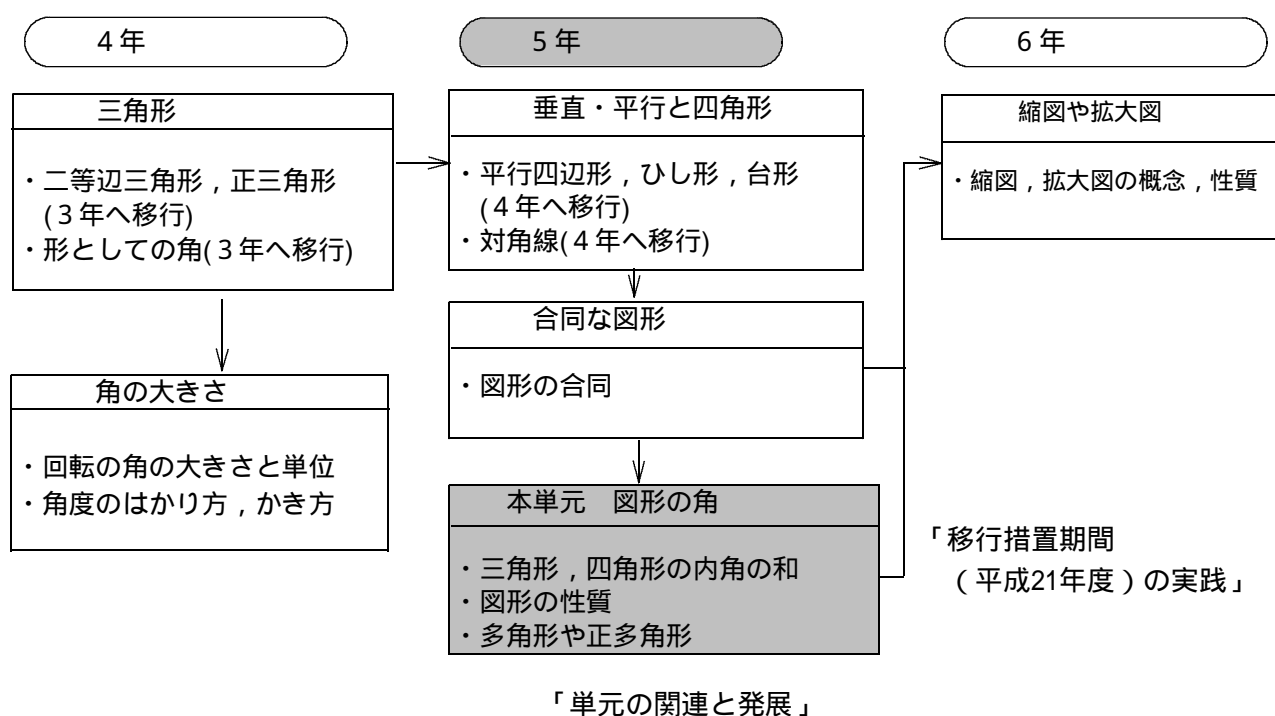
(1) 教材観

本単元は、第5学年の内容C(1)平面図形の性質のア、ウにかかわるものである。

児童は第3学年で、直角について平角を二等分した形として定義し、長方形や正方形の特徴の一つとしてとらえてきている。第4学年では、二等辺三角形や正三角形の性質の学習をするときに、角を切り取ったり、折って重ねたりする操作を通して、形としての角の相等について学習している。また、量として角も扱っており、回転による半直線の開き具合の量として角をとらえ、分度器を用いてその量を測定したり、必要な角の大きさを表したりする学習を行っている。さらに、第5学年第3単元で、直線の垂直・平行、台形、平行四辺形、ひし形などの性質について学習し、測定や作図などの作業を通して、平行線の性質の一つとして同位角が等しいことや、平行四辺形の性質の一つとして向かい合った角の大きさは等しいことを理解している。

本単元では、まず、三角形を敷き詰める活動などの具体的な操作に重点をおいて三角形の内角の和が 180° であるという性質を学習をする。次に、その見方から、任意の四角形の内角の和の求め方を考察させる。1本の対角線で2つの三角形に分割できることに着目させ、四角形の内角の和にも一定の値があることを見いださせる。さらには、五角形、六角形などの多角形について学習し、それらの内角の和も、四角形の場合と同様に、三角形に分割することによって求められることをとらえさせる。

また、本単元では、平成21年度移行措置によって「正多角形」の概念、性質とその作図方法も取り扱う。ここでも、折り紙を用いた作業的活動や正多角形の性質を調べる活動を重視し、図形を観察することを通して、正多角形の概念について理解を深めることが大切である。



本単元の実践は移行措置期間の平成21年度に行ったものであるので、上記の「単元の関連と発展」の図については、移行措置期間における学習内容の配列に準じて作成している。

(2) 児童観

実践校の対象児童は、課題に取り組むとき既習事項を生かしてなんとか自力で解決しようとする姿勢が定着してきている。解決の過程についても図や式や言葉を使って表わそうとしている。発表については、簡単な発問の場合には活発に答えようとする児童が多く見られる。しかし、考えたことの説明となると、積極的に発表できる児童は少ない。ペアやグループによる学習では、自分との相違点や共通点、友達の考えのよさを見付けながら、お互いの考えを伝え合う姿勢が定着してきている。

(3) 指導観

指導に当たっては、具体物を用いた作業的な活動、性質を見付ける探究的な活動、自分の考えたことを表現する活動、説明する活動などの算数的活動を積極的に取り入れた学習を展開する。このような算数的活動に主体的に取り組ませることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、数学的な思考力・判断力・表現力をはぐくむとともに、算数のおもしろさやよさが実感できるようにしたい。

単元の導入では、2種類の三角形を実際に敷き詰める活動を行い、敷き詰められた様子を見て、何か気付くことはないか考えさせるようにする。鋭角三角形や鈍角三角形が敷き詰められることを実感させ、三角形の頂点や内角の和に着目させることで、図形の角への興味・関心を高めたい。

三角形の内角の和の学習では、いろいろな三角形を調べる活動を通して、内角の和が 180° であることを帰納的に考えさせるようにする。三角形を敷き詰めたり、分度器で測定したり、3つの角を1点に集めたりする方法を使って、どんな三角形の内角の和も 180° になることの驚きを感じさせたり、その美しさを味わわせたりしたい。

四角形の内角の和を求める場合、三角形の内角の和が 180° であることを基にして、四角形の内角の和が 360° になることを考え、説明する活動を取り入れる。演繹的に考えて説明させることで、筋道を立てて考えることよさに気付かせていきたい。

正多角形の学習では、折り紙を用いて正多角形を作ったり、辺や角を調べたりする活動の中で、概念や性質、作図の方法を児童自ら発見させるような過程を大切に、平面図形についての理解を深めるようにしたい。

(4) 算数的活動について

基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るために、「三角形の敷き詰める」「三角形を用いて調べる」「正多角形の作図」などの作業的な活動、作ったものを基に辺や角を調べて性質を見付け出すなどの探究的な活動を取り入れることが大事である。

数学的な思考力・判断力・表現力の育成を目指すために、図や式、言葉を用いて自分の考えを書き表す活動、ペアやグループ学習で友達に説明する活動、学習を通して分かったことやきまりを基に説明する活動を取り入れることが必要である。考えたことや学習したことを人に伝える経験を積ませることで、根拠を基に筋道を立てて分かりやすく伝える力を高めていきたい。

3 単元の目標

- (1) ・基本的な図形の性質を基に、多角形の角の大きさの性質を調べようとする。
・正多角形の性質を、既習の経験を基に辺の長さや角の大きさに着目してとらえようとしている。
【算数への関心・意欲・態度】
- (2) ・三角形の内角の和が 180° になることを、敷き詰める活動などを通して考える。

- ・三角形の内角の和を基にして，多角形の内角の和の求め方を考える。
 - ・円の性質を基に正多角形のかき方を考える。 【数学的な考え方】
- (3) ・三角形の内角の和が 180° であることを用いて，多角形の内角の和を求めることができる。
- ・円を使って正多角形をかきことができる。 【数量や図形についての表現・処理】
- (4) ・三角形の内角の和が 180° であることや，多角形の内角の和は三角形に分割することによって求められることを理解する。
- ・正多角形の内容やその作図の仕方を理解する。 【数量や図形についての知識・理解】

4 単元計画 (全8時間)

小単元	時数	学習のめあてと主な学習活動	算数的活動	評価規準
図形の角	1 / 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">三角形のしきつめを見て，気付いたことを話し合おう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形が敷き詰められるかを考え実際に敷き詰める。 ・ 敷き詰めたものを見て気付いたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業的な活動 ・ 説明する活動 	<p>関角に着目して，敷き詰め活動に進んで取り組んでいる。</p> <p>考敷き詰められた三角形を見て，気付いたことをまとめることができる。</p>
	2 / 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">三角形の3つの角の大きさの和が180°になるか確かめよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の内角の和を調べ，180°になることを知る。 ・ 三角形の角の大きさを求める適用問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業的な活動 ・ 説明する活動 	<p>表計算で三角形の角の大きさを求めることができる。</p> <p>知三角形の内角の和は180°であることを理解している。</p>
	3 / 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">角度を測らないで，4つの角の大きさの和を求める方法を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 角の大きさを測らないで，四角形の内角を求める方法を考える。 ・ 四角形の内角の和の求め方を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現する活動 ・ 説明する活動 	<p>表計算で四角形の内角の大きさを求めることができる。</p>
	4 / 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">表にまとめて，多角形の内角の大きさの和のきまりを考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「五角形」「六角形」「多角形」の定義を知る。 ・ 五角形，六角形の内角の和を，三角形に分割して調べ，多角形の内角の和について表にまとめる。 ・ 多角形の内角の和のきまりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究的な活動 ・ 説明する活動 	<p>知多角形の内角の和は，三角形に分割することにより求められることを理解している。</p>
正多角		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">形の美しく整った多角形のとくちょうを調べよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正方形の折り紙を用いて，正八角 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業的な活動 	<p>関正多角形の性質を，辺の長さや角の大きさに着目して調べようとする。</p>

形	5 / 8	形を作る。 ・ 正多角形の辺の長さや角の大きさを調べ、定義を知る。 ・ 正方形、長方形、ひし形などが正多角形といえるかどうかを考え、判断した理由をペアの相手と説明し合う。	・ 探究的な活動 ・ 説明する活動	<input type="checkbox"/> 考正多角形かどうかを判断し、その理由を説明することができる。
	6 / 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">正八角形のかき方を考えよう</div> ・ 正八角形の性質を考える。 ・ 正八角形のかき方を考え、作図の手順をまとめる。 ・ 円を用いて正多角形をかく。	・ 表現する活動 ・ 作業的な活動	<input type="checkbox"/> 関正多角形の性質を使って作図をしようとする。 <input type="checkbox"/> 表正多角形を作図することができる。
	7 / 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">正六角形になるわけを図を使って説明しよう</div> ・ 円のまわりを半径の長さで区切って正六角形をかく方法を知る。 ・ 6つの合同な正三角形を手がかりに、正六角形がかけるわけを考える。 ・ 円のまわりを半径の長さで区切って正六角形をかく。	・ 作業的な活動 ・ 説明する活動	<input type="checkbox"/> 考正六角形がかける理由を、辺の長さや角の大きさをういて説明することができる。
	ま と め 8 / 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「たしかめよう」をすべてやりとげよう</div> ・ 「たしかめよう」に取り組む。		<input type="checkbox"/> 知基本的な学習内容について理解している。

参考資料・・・算数的活動のとらえ方 小学校学習指導要領解説算数編（平成20年8月）より
 手や身体などを使ってものを作るなどの作業的な活動
 教室の内外において各自が実際に行ったり確かめたりする体験的な活動
 身の回りにある具体物を用いた活動
 実態や数量などを調査する活動
 数量や図形の意味、性質や問題解決の方法などを見付けたりつくりだしたりする探究的な活動
 学習したことをさらに発展させて考える活動
 学習したことを様々な場面に応用する活動
 算数や他教科等の学習を通して身に付けたものを総合的に用いる活動

これらに加えて、

プロジェクト研究で提案する活動
 既習内容（事項）を振り返る活動
 自分の考えを表現する活動
 自分の考えたことを説明する活動

5 各時間の指導の実態 1 / 8時, 2 / 8時, 3 / 8時についてまとめたものです。

(1) (1 / 8時) 三角形のしきつめを見て、気付いたことを話し合おう

本時の目標

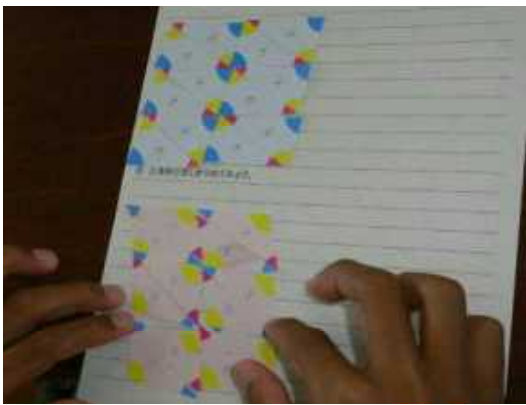
- ・ 三角形を敷き詰める活動や図形の性質を見付けるなどの活動を通して、図形の角への興味・関心を高めることができる。【算数への関心・意欲・態度】
- ・ 三角形の敷き詰めを見て、角・辺・形に着目した気づきをまとめることができる。

【数学的な考え方】

主な算数的活動について

- ・ 作業的な活動として、角のひみつを調べようとする興味・関心を高めるため、2種類の三角形をそれぞれ敷き詰めさせる。
- ・ 説明する活動として、気付いたことを出させ合い、それが成り立っているかを検討させる。

本時の展開

過程	学 習 活 動 (算数的活動)	指導上の留意点 評価規準と評価方法 算数的活動の指導にかかわる留意点
つかむ	<p>1 三角形を敷き詰める活動をする。</p> <p>二等辺三角形や直角三角形以外の三角形の敷き詰めについて考える。 教科書90ページの , の三角形を使って、敷き詰める活動をする。</p>  <p>「児童の敷き詰めの様子」</p>	<p>三角形が敷き詰められている写真を提示し、「敷き詰め」の学習や身の回りの「敷き詰め」を思い起こさせ、敷き詰めへの興味をもたせる。</p> <p>できない三角形があると考える児童がいた場合には、どんな三角形かを発表させる。</p> <p>一人一人に敷き詰める活動に取り組みせ、活動の時間を10～15分確保する。</p> <p>敷き詰められない児童には、同じ長さの辺を合わせることを指示する。また、早く終わった児童と一緒に取り組みさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>角に着目して、敷き詰め活動に進んで取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】 〔ノート〕</p> </div>
見通す	<p>2 本時の課題をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>三角形のしきつめを見て、気付いたことを話し合おう</p> </div>	<p>角, 辺, 形といった気づきの視点を与えることで見通しをもたせる。</p>

自力解決

3 個人で気づきを考える。

《形，辺，並び方》

- ・ 2つ並べると平行四辺形ができる。
- ・ すべて並べると平行四辺形ができる。
- ・ 台形ができる。
- ・ 同じ長さの辺がくっついている。
- ・ 規則的に並んでいる。

《角》

- ・ 向い合う角は同じ色
- ・ 6つの角を合わせると 360° になる。
- ・ 赤，青，黄の角をつなげると 180° 。
など

「児童の気づきの実際」

学び合い

4 全体の場で気付いたことを話し合う。

自分が気付いたことを話す。



「6つの角が集まって 360° になっていることを説明する児童」

まとめ

5 本時の学習を振り返る。

敷き詰めから気付いたことをそれぞれの言葉でまとめる。

三角形のしきつめを見て気付いたことは，

- ・ 三角形をしきつめていくことで形や角度などいろいろな変化がでてくる。
- ・ 偶数の三角形を合わせると平行四辺形奇数の三角形を合わせると台形ができる。
- ・ 向かい合っている角度は同じ。赤，青，黄が3つ重なると 180° になる。
- ・ 角を6つ集めたら 360° 3つの角で 180° 360° は1周， 180° は， 360° を半分にした1コ分($\div 2$)という事

「児童のまとめ(一部)」

敷き詰めを見て気付いたことを言葉で表現させる。

個別指導を行いながら，児童の気づきを把握する。

出された気づきが正しいかどうかを検討させる。

角，辺など，着目した視点ごとに整理して板書する。

次時につなげるため，角に着目した気づきについては，詳しい説明を求めたり，揺さぶる発問をしたりして，重点的に考えさせる。

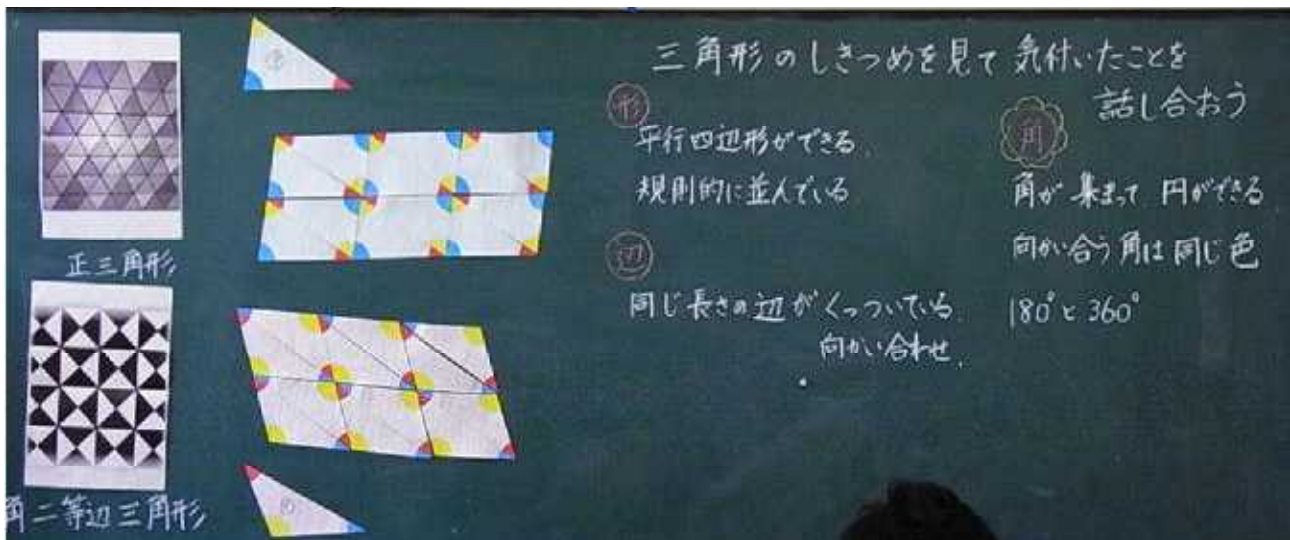
「三角形のしきつめを見て気付いたことは」の続きを自分の言葉で書かせ，学習のまとめとする。

敷き詰められた三角形をみて，気付いたことをまとめることができる。

【数学的な考え方】

〔ワークシート〕

<ul style="list-style-type: none"> 自己評価をする。 	次の時間は、三角形の角について学習することを知らせる。
--	-----------------------------



「1 / 8時の板書」

実践後の授業者の振り返りと指導のポイント

- 敷き詰める三角形は教科書90ページの三角形2種類を使用するが、一枚一枚切り取るのに時間がかかるので、授業前に前もって切り取らせておいた。破れやすいので、切取線に沿って折り曲げてから切り取らせるとよい。
- 個人で気づきを考えさせる際には、「気づき」という言葉だけではどんなことを書き表せばいいのかが分かりづらいので、角・辺・形といった着目する視点を示すことにした。
- 今回は個人で考えた後、全体で話し合うといった流れで進めたが、時間的な余裕がある場合には、全体での学習の前に、ペアやグループでの話し合いを取り入れることも考えられる。ペアやグループにすることで、すべての児童に発言の機会ができ、全体での話し合いに向けて自信をもたせることができると思われる。
- 全体場で出された気づきは、着目した視点をはっきりさせるため、視点ごとに整理して板書するようにした。
- 敷き詰める活動や気づきについて話し合う活動を通して、図形の構成要素や性質について考えようとする意識をもたせることが大切である。特に、角への気づきについては、複数の児童に説明させたり、説明に出てきた言葉や数字が「敷き詰め」のどの部分に当たるかということなどの発問をしたりして、重点的に考えさせたい。

(2) (2 / 8時) いろいろな三角形の3つの大きさの和が 180° になるか確かめよう


本時の目標

- ・ 自分や友達が調べた結果から三角形の内角の和が 180° であることを理解することができる。
【数量や図形についての知識・理解】

主な算数的活動について

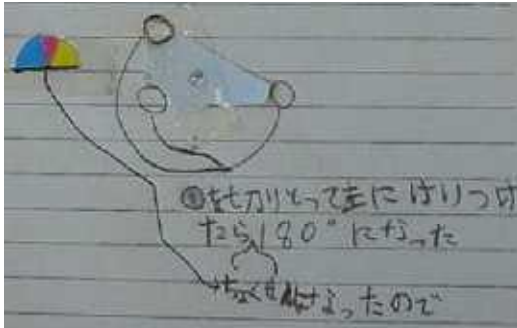
- ・ 作業的な活動として、「三角形の内角の和が 180° になる」ことを確かめさせるために、自分が考えた方法を用いて調べさせる。
- ・ 説明する活動として、自分が確かめた方法を友達に分かりやすく伝えるとともに、適用問題に取り組む中で、答えを導いた根拠を説明させる。

本時の展開

過程	学習活動 (算数的活動)	指導上の留意点 評価規準と評価方法 算数的活動の指導にかかわる留意点
つかむ	1 学習の課題をとらえる。 2種類の三角定規の角について考える。	2種類の三角定規の共通点を考えさせ、両方とも3つの角の大きさの和が 180° であることをつかませる。 他の三角形でも 180° になるだろうかと問い掛け、課題を提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 三角形の3つの角の大きさの和が180°になるか確かめよう </div>		
見通す	2 解決の見通しをもつ。 予想させる児童の解答 ・ 分度器で角を測る。 ・ 3つの角を切って一点に集める。 ・ 敷き詰める。	三角形の内角の和を求める方法として、どのような方法が考えられるか発言させる。
自力解決	3 自力解決をする。 それぞれの方法で、3つの角の大きさの和が 180° になることを調べる。	前時で敷き詰めた2種類の三角形について、自分が考えた方法で確かめさせる。 確かめた方法とその結果が、友達にもよく分かるように、ワークシートに書かせる。 早く終わった児童は、他の方法で確かめるように指示する。
		
	「分度器を使って確かめる児童」	



「3つの角を一直線に並べた児童のワークシート」

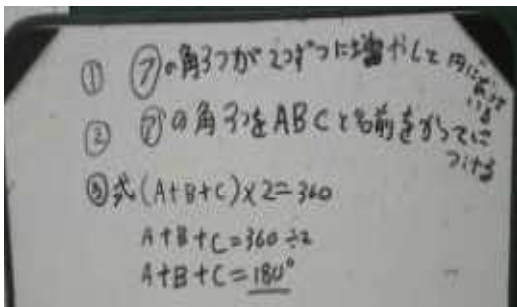


「角を切って一点に集めた児童のワークシート」

4 全体場で確かめた方法と結果を発表し合い、三角形の角の性質をまとめる。

確かめた方法と結果について、表を掲示してまとめていく。

学
び
合
い



「説明するため、ホワイトボードに書き表した児童の考え」

角度を測る	180°	180°	180°
しきつめる		180°	直線 180°
3つの角を 1点に集める		180°	直線 180°

どの三角形も、いろいろな方法で調べた結果、180°になったことを確認させる。

三角形の3つの角の大きさの和は、180°になる

5 教科書4ページの適用問題を解く。

測定するのではなく、計算で求めることをおさえる。

答えの求め方を、ペアをつくって説明し合う。

(1), (3)の問題は、全体場で求め方を説明させ、その後、(2), (4)に取り組みさせる。終わったペアは、答えをどのようにして出したか、互いに説明させる。



「ペアで説明し合う様子」

180° から分かっている角度を引けばよいことを、個別指導を通して気付かせる。

三角形の内角の和は180°であることを理解している。

【数量や図形についての知識・理解】

〔適用問題・ワークシート〕

計算で三角形の角の大きさを求めることができる。

【数量や図形についての表現・処理】

〔適用問題・ワークシート〕

- まとめ
- 6 本時の学習を振り返る。
 - ・ 自己評価をする。



「2 / 8時の板書」

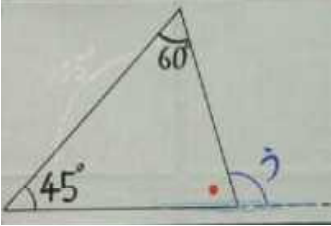
実践後の授業者の振り返りと指導のポイント

- ・ 本時の導入では、2種類の三角定規の共通点を考えさせた。既習内容である三角定規の3つの角の大きさを基に、その和がどちらも180°であることを確認した上で、直角三角形以外の三角形も180°になるかどうかを確かめさせるようにした。調べる三角形は、前時の三角形を3枚残しておき、それを使用するようにした。
- ・ 個人で確かめた方法と結果は、「友達にもよく分かるように」を意識させて、ワークシートに書かせるようにした。
- ・ 本時では、3つの角の大きさの和が180°であることを帰納的な考えで導き出すことが大切である。そこで、違う種類の三角形をいろいろな方法で調べたことをとらえやすくするため、方法と結果を表にまとめた。

角度を測る			
しきつめる			
1点に集める			
おりまげる			
三角形の3つの角の大きさの和は、180°になります。			

「表」

- 適用問題では答えを求めさせるだけでなく、理解の定着と深化を目指して、答えを導いた根拠をペアで説明し合う活動を取り入れた。最初に説明の例を示すため、全体場で求め方を説明させた。特に、外角を求める問題については、代表児童に説明させた後、求めた式に表された180、75、180が何を表しているかを考えさせた。


$$\underline{180} - (60 + 45) = \underline{75}$$
$$\underline{180} - \underline{75} = 105$$

「外角を求める問題と求める式」

その後、別の2問を解かせて、ペアでお互いに説明し合う活動を行わせた。



「ペアで説明し合う児童」

(3) (3 / 8時) 角度を測らないで、4つの角の大きさの和を求める方法を考えよう

本時の目標

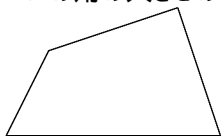
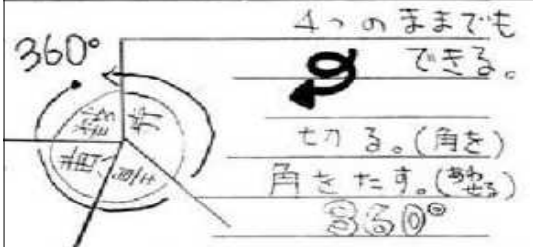
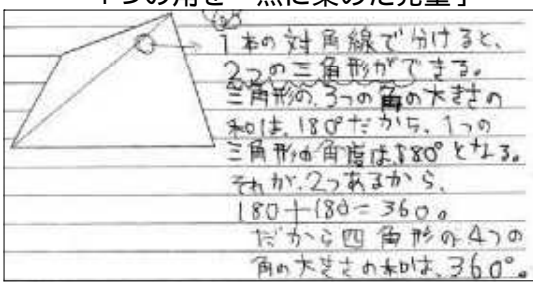
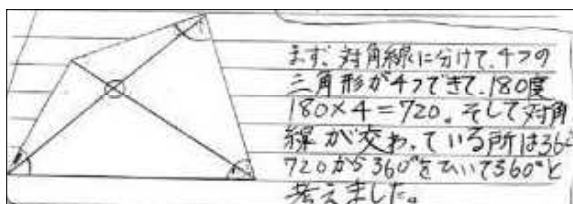
- ・ 四角形の内角の和を、三角形の内角の和を基にして求めることができる。

【数量や図形についての表現・処理】

主な算数的活動について

- ・ 表現する活動として、四角形の内角の和の大きさを求める方法を、図や式、言葉を使ってワークシートに書き表すようにさせる。
- ・ 説明する活動として、四角形の4つの角の和が 360° になる理由を説明するために、三角形の内角の和を用いて、ペア学習の相手に説明する場を設けて、繰り返し練習させる。

本時の展開

過程	学習活動 (算数的活動)	指導上の留意点 評価規準と評価方法 算数的活動の指導にかかわる留意点
つかむ	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 学習の課題をとらえる。 四角形の4つの角の大きさの和を考える。</p> 	<p>3つの角を合わせた図を示し、前時の学習を確認する。</p> <p>いろいろな四角形を提示し、正方形、長方形は360°になることを確認し、他の四角形はどうかを予想させる。 求める四角形は、左の四角形を使う。</p>
<p>角度を測らないで、4つの角の大きさの和を求める方法を考えよう</p>		
見通す自力解決	<p>3 解決の見通しをもつ。 自分が考えた方法を発表する。 対角線 三角形 分ける やぶる・きる おる ならべる</p> <p>4 自力解決をする。 各自が考えた方法で、内角の和を調べる。</p>  <p>「4つの角を一点に集めた児童」</p>  <p>「三角形を2つに分けた児童」</p>	<p>求める方法が分かった児童には、他の児童へのヒントとして、「単語」だけで表現したものを発表させる。</p> <p>図や式、言葉を使って求め方が分かるように、ワークシートに書かせる。 前時のように角を切ったり、敷き詰めたりする活動も認める。</p>  <p>「三角形を4つに分けた児童」</p>

- 5 自分の考えを発表し，話し合う。
全体の場で考えを話し合う。



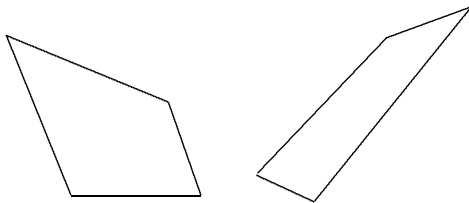
「全体の前での説明する様子」

いろいろな方法の中から，簡単な求め方を考えさせる。

三角形の角の大きさの和が 180° であることを用いると，簡単に求められることをつかませる。

四角形の4つの角の大きさの和は， 360° になる

- 6 ペア学習で適用問題をする。
下記の四角形について，「4つの角の大きさの和が 360° になる」理由を説明する。



「使用した四角形」

ワークシートに示した2つの四角形のうち1つを選ばせ，ペアの相手に説明させる。

説明がうまくできない児童には，途中までの文章を書いたカードを渡し，その続きを説明させる。(資料 参照)



「ペアで説明し合う様子」

どの四角形でも 360° になることを確認する。

- 7 教科書5ページの適用問題を解く。

測定するのではなく，計算で求めることを押さえる。

- 8 本時の学習を振り返る。

- ・ 自己評価をする。

計算で四角形の内角の大きさを求めることができる。

【数量や図形についての表現・処理】

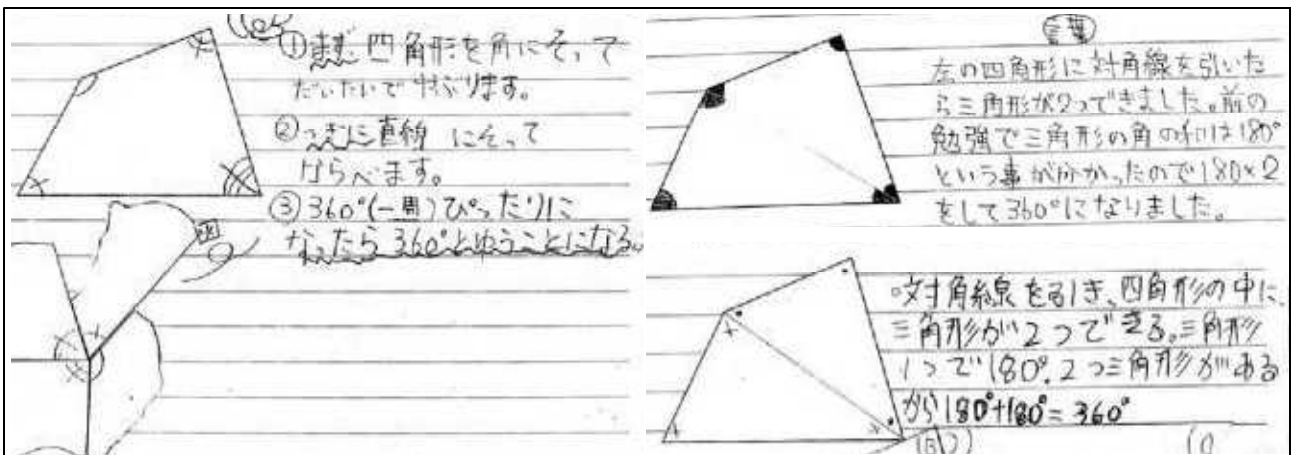
〔適用問題・ワークシート〕



「3 / 8時の板書」

実践後の授業者の振り返りと指導のポイント

- ・ 見通しをもつ場面では、求める方法を思いついた児童に、解決のヒントを単語だけで表現させるようにした。
- ・ 自立解決の場面では、考えたことが友達にもよく分かるように図や式、言葉を使って書き表すように指導した。

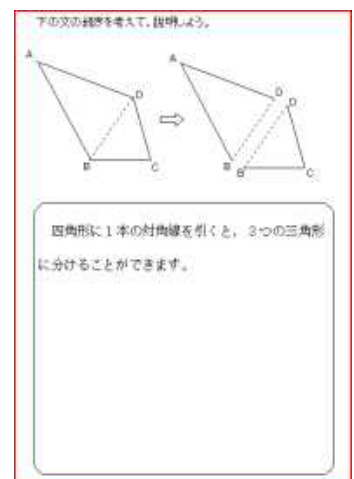


「児童のワークシート」

- ・ 全体で話し合う場面では、いろいろな方法の中で簡単に求められる方法はどれかを考えさせた。前時のように、角を切って集めたり、敷き詰めたりした方法も認めるが、三角形の内角の和が 180° であることを基にして、演繹的に考えた方法がよりよいことをつかませるようにした。

その後、別の2種類の四角形を提示し、その内角の和が 360° になるわけをペアで説明し合う活動を取り入れた。ここでは、四角形を1本の対角線で2つの三角形に分けて、 180° の2倍から 360° になることを説明することになる。演繹的に考え、説明し合う活動を通して、筋道を立てて考えることに興味をもたせたり、筋道を立てて考えることよさに気付かせていくようにしたい。

説明がうまくできない児童には、始めの文を書いた「説明ヒントカード」を与え、文の続きを説明させるようにした。



資料 「説明ヒントカード」